学校だより

磨光

令和７年１月２８日（火）
三豊市立本山小学校
No.23
発行者：中田　祐二

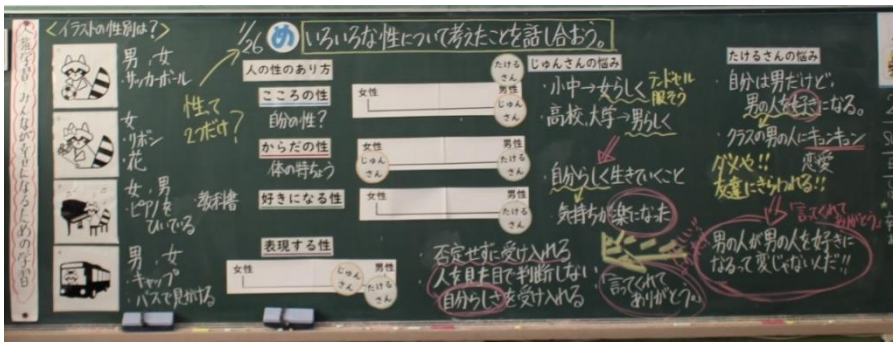
日曜日は、授業参観、親子ふれあいワークショップにご来校くださり、ありがとうございました。参観の時は毎回そうなのですが、お家の方が来られる時間になると、子どもたちが玄関に集まり、お迎えをしています。自ずとそうなります。子どもたちは、自分の頑張りを見てほしいのです。

他者の靴を履く（＝相手の立場に立ってみる）

世の中にはいろいろな立場の人がいて、悩んでいることも、どのような言葉で傷つくのかも異なります。子どもたちは、その多様性の全てを理解しているわけではありませんし、これまでの出会いも限られたものです。でも今後たくさんの人と出会う中で、知らず知らず何気ないひと言で人を傷つけてしまうかもしれない。だから、いろいろな立場の人がいるということを知り、「この言葉が、この行為が人を傷つけないか」と、言葉も行動も大切にしていく。「他者の靴を履く」意識を育てていきたいと思っています。

この日、６年生は「性の多様性」について考えました。

「多様性」を尊重するためには、「当たり前」を問い直すことが必要です。「男だから当然…」「女だから当然…」ではなく、「その考え方は誰にとって当たり前なのか」「他の考えは存在しないのか」と自らに問うことで、自分自身の固定概念や偏見に気付くことができます。授業後の黒板を見ても、６年生がしっかりと考えたことがうかがえます。



他の学年でも、住む場所による差別、思い込みや決めつけ、障がい者差別など、それぞれ人権について学びました。授業後、ある教員は次のような言葉を残しました。

> **やはり人権は難しいと痛感しました。何度も練っていく中でどんどん分からなくなっていく感覚があり、どうしようと不安でした。しかし、当日、授業後の子どもたちは、「あんなに静かに授業して、いっぱい考えたのは初めて。考えすぎたら疲れた。」と言っていました。一生懸命考えている姿が見られ、成長を感じました。私はもっと勉強です。**
> **（ある教員の授業後の手記より）**

異なる立場の人と分かり合うためには時間もかかります。時には難しい局面と出あうこともあるでしょう。それでも、この子どもたちに負けないように、私たち教員も勉強です。

好評！？　親子ふれあいワークショップ

昨年度は、この参観の時に、親子で「ものづくり体験」をしました。今回、「ふれあいワークショップ」のご案内をしたところ、（ものづくりがよかったなあ……）という声がちらほらと。それでも、いざふたを開けてみると、子どもと保護者、保護者同士が和気あいあいと活動しており、その姿を見て安心しました。

子どもたちは、自分の大事な人、自分を大事にしてくれる人の話をよく聞き、見習おうとします。子どもにとっての、その人―それは、とりもなおさず家族です。ですから、その力を持つ家庭教育は大切で、子どもが育つ基盤です。真面目に思いを伝えあうのは、少し照れくさかったかもしれません。でも、こうやって互いの声を聞き、家族の在り方を確認する時間、よかったのではないでしょうか。